

女性活躍推進と女子大学



現在、国を挙げて女性の活躍推進が謳われている。

世界経済フォーラム（WEF）が男女格差の現状を各国の統計をもとに評価するジェンダーギャップ指数（2024年）において、日本は世界146カ国中118位。特に政治・経済分野での低迷が続いている。

こうした状況を受け、「女性活躍・男女共同参画の重点方針2024」（女性版骨太の方針2024）においては、今後の女性活躍と経済成長の好循環に向けて、

企業における女性登用の加速化

女性起業家の育成・支援

科学技術・学術分野における女性活躍の推進

地域における女性活躍の促進 等の項目が挙げられている。

個人のあり方に目を向ければ、自らの興味関心を大事に探究したい学びを実現することはもちろん大前提ではあるが、その一方で、新たな社会で活躍し、社会貢献していける「働き方」「あり方」ができる女性であることも重要だ。

昨今、女子大学の存在価値についての議論や意見が多々交わされているが、これから求められる女子大学とは、そういった今後の社会で必要とされる女性の活躍のあり方に向き合い、育成人材を社会に多く送り出すことができる大学ではないだろうか。

本特集では、社会における女性の活躍の形について有識者に話を聞くとともに、そうしたあり方を模索する女子大学取材した。多様性の時代における大学経営の参考になれば幸いである。

CONTENTS

【インタビュー】社会が求める女性活躍の形

株式会社ワークシフト研究所 代表取締役社長 小早川 優子

【事例】社会で活躍する女性を育てる女子大学

日本女子大学

北海道武蔵女子大学

京都女子大学